

# 「かんきょう」パンフレット

第80号 (社内環境情報紙)

2012年 11月 12日

青柳工業株式会社 環境会議 事務局

## 回収キャップが4000個をこえました

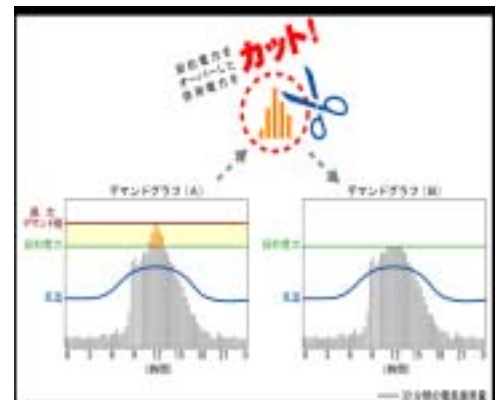
本年度から始めました、ペットボトルキャップの回収は、皆様のご協力により、4月から10月までの累計で4000個を突破しました。11月6日には、回収業者に2回目の送付を完了しました。当初の見込では、本年中に(12月までに)4000個達成出来ればと考えていましたが、2ヶ月早い達成となりました。この要因は、ご家庭から寄贈して頂いた回収キャップが、全体の半分近くを占めるなど、社員のご家族まで巻き込んだ成果と思われる。しかし、冬に向けてペットボトルの需要が大きく落ち込むことを想定しています。しかしながら、11月に入ってもご家庭からの回収されたキャップが数多く持ち込まれています。皆様のご協力に感謝するとともに、これからのご支援も、引き続きよろしくお願い致します。



送付した回収キャップ

### 冬場のピーク値低減にご協力ください

現在、電気使用量の状況は、昨年を若干下回るペースで推移しています。当社は、特に冬場に使用量、最大電力量(ピーク値)とも最大となります。ピーク値により、その後、約一年間(11ヶ月)の電気契約料金が決定してしまいますので、気温が低い早朝には、極力無駄な電気を使用しないように電気使用低減に向けてご協力をお願いします。



ピークカットに成功すれば料金に反映

### 「ネジ」分別のお願い

組立の皆さんで、本社プレハブ2階の電気部品等の整理を行いました。様々なものが収納されていて驚きましたが、分別作業お疲れ様でした。残念だったことは、分別されたネジの中に、真ちゅうと鉄製のものが混在しているものがあり、その物は有価物としてではなく、廃棄物として処理してしまったことです。真ちゅうは鉄に比べ高額で引き取られますが、混在している場合は、分別に手間がかかるという理由で、回収されないことがあります。そこで皆さんにお願いしたいのは、ネジを廃棄する場合は、真ちゅう、銅、ステンレス製のネジは箱にいれたまま処分をお願いします。真ちゅうなどのネジ製品は、メッキされた状態で目視により分別することは大変難しく、磁石等で吸いつけて鉄のみを取り出す作業が必要になってきます。箱のままの状態、業者に引き渡すことが最善策です。ただし、鉄製のものは、従来通りの処分方法で問題ありません。廃棄するものとはいえ、大切な会社の財産ですので、無駄なく処分したいと思います。



あまったネジも分別で財産に

### 環境コラム 「太陽光発電導入について」 ~環境管理者研修会の話題より~

環境管理者研修会が行われ、各企業の管理者より、KES環境活動も5~6年が経過すると節電対策など様々な対策をやりつくして、目新しいものがなくなってしまうといった意見が報告されていました。そのような意見が大勢を占める中、会社の駐車場に太陽光発電のパネルを設置して、自然エネルギーを取り入れることを目標にしているといった内容の発言があり、物議を招きました。確かに、日本は太陽光発電の大国で、世界水準にあると自負しているようですが、実際には先進国といわれるドイツに比べ1/4程度で、全体の発電量からみても、占有率はわずかに1~2%程度に止まっています。その理由は、夜間は無効である、天候に左右される、蓄電技術が伴っていないなどですが、何よりもコスト高であることが、最大のリスクになっています。更なる技術革新で、低コストな製品が生まれるまで、まだ時間がかかるようです。